

日々の暮らしで感じる、 ジェンダーのこと



森 恭子

(神戸YWCA 会員・ジェンダーグループ / 同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程)

私は大学でジェンダー論やフェミニズムについて学んできましたが、学んだ気になっていただけだと気づいたのは、結婚したことでジェンダーによる不平等を自分のこととして感じた経験でした。結婚式をめぐるあれこれ、慣れない風習に加えて、一番の戸惑いは「嫁」になることでした。結婚して初めて夫の実家に行ったときです。義母は私に新調のエプロンを渡してくれました。私が家事手伝いをするのは当然とされ、食器の場所や台所の使い方を教えてくれました。夫は自分の家なのに何もしないし、しるとも言われません。エプロンが意味する役割に、ふつふつと違和感が湧きました。

また、子どもをめぐってジェンダーを考えることが増えました。たとえば、私の子どもは歩行に困難があり足に装具をつけています。まだオムツの頃、装具をつけ始めて慣れないこともあって、外出先での着脱にとっても苦労しました。市販のズボンでは最近の流行でピッタリなものが多く、トイレに行くたびにスカートが履けたら、と何度も思いました。とはいえ、いくら服を選ぶ基準は機能性重視、と理由づけても、私はスカートを息子に選ぶことはできませんでした。子ども服売場を見渡すと、男の子は恐竜、乗り物、チェック柄と相場が決まっています。それに比べ、女の子の服は形や色、絵柄も豊富です。しかし、性別によって選ぶ服が決まっているという点では、どちらも選択肢はひとつです。うちの子は、最近では教えてもないのに、髪が長いのは女の子、赤は女の子と言うようになり、性教

育の文脈で性差の違いを知ることと、ジェンダー規範について教えることの難しさにも直面します。

男子は、比較的早い時期からジェンダー規範に縛られる傾向が強く、女子の方が自由度が高いと言われています。服装の例のように、いくら幼児でも男子のスカートはかなりハードルが高いです。しかし、10代を迎える頃には逆転し、女性は「わきまえること」が大人の対応であるというジェンダー規範に強く晒されるようになります。いつしか女性は、自分の言葉なのか、相手が求める言葉を発しているのか曖昧になりがちです。また、相手を思いやるあまり、はっきりした意見にならない、あやふやな答えになる、という態度は、主体性のなさや理論だっていない、などのように批判的に女性の特徴として捉えられます。このように、女性にとって自らの言葉を紡ぎ出すことは決して容易なことではなく、だからこそ、自身の言葉で語ることがとても重要になるのだと思います。

私は最近、神戸YWCAの会員になりました。そしてジェンダーグループで活動をしています。私たちは、日頃言葉にできない、もしくは言葉にしようとしていないモヤモヤを言葉にして伝えようと、「ジェンダーコタツ会議」というフリーペーパーを作り始めました。自身の言葉を紡ぎ共有するという、とてもシンプルですが重要なこの活動は、かつてのリヴ運動で実践されたコンシャス・レイジングを思い起こさせ、あらためてその重要性を実感しています。

なんでこんなことになってんねん ～入管に民主主義＝法の支配はあるのか～

1月20日(土)、オンライン講演会を開催。講師は18年間入管職員として働かれ、『入管ブラックボックス 漂流する入管行政・翻弄される外国人』著者の木下洋一さん。

2021年春、名古屋入管施設内でウシユマさん死亡事件が起こり、入管への関心が高まった。講座は「民主国家日本でなぜこんなことが起こったのか」「入管職員はどんな気持ちなのか」など参加者が率直な疑問

をぶつけ、それに対して木下さんが丁寧に答えながら進められた。入国、在留許可などすべての入管行政は入管の裁量に任せられ、第三者機関のチェックがされていない、まさに「入管ブラックボックス」であるとのこと。この「ブラックボックス」から抜け出すためには、裁量の統制、入管行政の透明化、外国人に対する適正手続きと人権保障を担う「外国人庁」の設置などの改革、そして国民



講師の木下洋一さん

の視線が重要であるとしめくくられた。参加者37人。

(世界・社会委員会・野村 春美)



12.2 緊急上映会を開催

2023年10月7日、ハマスの奇襲攻撃から始まったパレスチナとイスラエルの武力衝突。長年パレスチナ問題に関わって来られた映画監督古居みずえさんの「ガザの状況を知ってほしい」との要請に応え、12月2日(土)、特別企画として、映画『ぼくたちは見た』の緊急上映会を平和活動グループとの協働によ

り開催した。

目の前で家族が殺されたガザの子どもたちの心に深く刻み込まれた悲しみ、苦しみは参加者一同の心に迫り、一刻も早く停戦されることを願わずにはいられなかった…。参加者26人。席上寄付26,985円は「パレスチナ子どものキャンペーン」へ送った。

(世界・社会委員会)



まごの手ヘルパー徒然記

独居の70代男性Sさんのところを訪問したのは、一昨年の11月だった。新規の利用で要支援2だったが、すでに足にかなり浮腫が出ていて動きづらそうであり、認定よりも症状が重そうだった。妻・娘は先に亡くなり、年上の友人に時々買い物などを手伝ってもらっていたが、友人も体調不安があるため、介護サービス利用を申請することになった。Sさんは、「お金もあまりないし、自分でできるようにになったらヘルパーさん断

るかもしれないけど、いいかな」と言われた。

私は「それで構わない」と答えた。

訪問すると、Sさんはきちんとメモに買ってほしいものを書いてくれていた。「自分は調理ができないから、教えてほしい。煮物とかを作りたい」と希望されたので、長い間立っていられないSさんの代わりにヘルパーが材料を切って味付け方法を伝え、Sさんが後で味付けをしたことが何度かあった。



ヘルパーの訪問は断られることなく続いた。

次第に、Sさんの体調が悪くなっていった。2月中旬の通院時に入院となり、そのまま1カ月後に帰らぬ人となってしまった。

“何とか、自分で、できるところまで…”。最期の、たった3カ月のお付き合いであったが、自力で、できるところまで歩ききったSさんの生きざまに心を打たれ、少しでも関わらせてもらえてありがたかった。

(まごの手職員・藤井 かえ子)



会員活動報告

音楽をとおして平和を考える会

(ピース・ブリッジ・平和活動グループ)
11月26日(日) 於・神戸学生青年センター、36人参加

冬休みのセカンドハウス

(神福のはしご)

12月27日(水)～1月2日(火)
1家族3人が住吉セカンドハウスに滞在

パレスチナの平和を願って

(ピース・ブリッジ)

2月18日(日) 於・喫茶エスポワール
お話:宮崎祐さん(大阪YWCA職員)
11人参加

エルサルバドル伝書鳩

Vol.3



人生初めての暖かいクリスマス・年越しを過ごしました。エルサルバドルは、宗派の違いはありますが、キリスト教を信仰する人がほとんどです。基本的にはどの町でも中心部に市役所・公園・カトリック教会と一緒に配置されています。そんなエルサルバドルでは、クリスマスは盛大に祝われ、12月中旬からお祭りや花火の打ち上げが連日行われています。

クリスマス当日の教会では、マリアヒョセフが宿を探し歩いた場面を再現して祝う行事である「ポサダ」の歌が流れ、普段より



も多くの人が集い、夜には家族と七面鳥を食べました。そして、大晦日には道端でご近所のみなさんとハグをし、ワインとぶどうをいただきました。クリスマス飾りは1月中旬に片付けられ、ようやく年の始まりを感じ、気が引き締まる思いです。(福田 百)

金曜日の、なだのはまエイト

この日の定期イベントは、市島町から丹波太郎さんの有機野菜の車が到着し、前庭で開く野菜市です。季節や気候によって量や種類は一様ではありませんが、とれとれの新鮮でおいしい野菜はスーパーにはないような珍しいものもあって、「どうやって調理するの?」「食べ方は?」と、いつも15、6人のお客さまで賑わいます。そんな方々を、明るく笑顔でやさしく丁寧に対応するのはプロジェクトのチームスタッフたち。

そして、同じ時間帯に集會室ではミニミニバザーも開催。素敵にディスプレイされた寄贈品や手芸品、リサイクル衣料に「いいね!欲しい!」との声。センスのよさと安さにそそられ、つい手

に取ってお買い物。一度のぞいた方がお友だちを誘って来られるなど、回を重ねるごとに新しいお客さまが増えていくようです。1時間あまりですが、ここが地域の方々の楽しい出会いの場・たまり場となっていることを実感し、ワクワクさせられる金曜日の午後のひとときです。(平山 芳子)

2023年度クリスマス献金先(キリスト教基盤委員会)

- NGO 神戸外国人救援ネット
- 神戸いのちの電話
- 神戸の冬を支える会
- 特定非営利活動法人中央むつみ会
- 神戸国際支縁機構
- 被災地 NGO 協働センター
- 日本YWCA (パレスチナ・ウクライナのために)

第104回神戸YWCA 定期会員集会

3月9日(土)

10:00～15:00

神戸YWCA 会館5階

プログラム

第1部

1 理事会報告

2 議事

(1) 2023年度活動報告・会計報告

(2) 会費について

(3) 2024年度活動計画・予算案

(4) 運営委員・指名委員選出

第2部

(1) 大阪YWCAのRUSV活動

(2) 日本YWCA報告



1991年春、私の神戸生活がはじまり、神戸YWCAとの出会いはこの時であった。

学院専門学校の日本語教師養成学科の学生として2年、スタッフとして14年、さらに会員として現在に至っている。日本国内とはいえ、生まれて初めて見知らぬ土地での生活は不安だった。でも、最初から素晴らしいクラスメイトに出会い、学業ばかりでなく、生活情報まで教えてもらい楽しく快適に過ごすことができた。スタッフになつてからは、担当学科に他県から移転してくる受講生や、日本語学科には母国を離れた外国人留学生たちがおり、私の経験が役立てばと思いをかけるように努力した。

2年前に両親が亡くなり、故郷に戻ろうと身辺整理をはじめた。神戸での生活は本当に離れがたく、また、長い時間がたち、故郷とはいえ見知らぬ土地に移ると同じ不安もある。そんな時、神戸YWCAのご縁で故郷のYWCAでボランティア活動のお手伝い参加の機会をいただけることになり、感謝している。訪れるニューカマーを受け入れてくれるYWCAの素晴らしさがこれからも続いていってほしいと願ってやまない。

(尾崎 淳子)

神戸YWCAへの おさそい



アクセス

*予定は変更されることがありますので、ホームページ・SNS等で最新情報をご確認ください。

●わいわいデイルーム 会館

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)
毎週火曜日、10時～15時
対象：神戸市内にお住みの65歳以上の方で、
ご自分で通って来られる方。
*お近くの「あんしんすこやかセンター」で
お申し込みください。

●カフェもぐもぐ その他

若年性認知症の人と仲間たちのつどい
3月2日(土)
10時30分～14時
場所 神戸YWCA なのはまエイト
参加費 800円(食事付)
要予約、詳細はお問い合わせください。

●認知症サポーター養成講座 その他

3月2日(土) 14時～16時
場所 神戸YWCA なのはまエイト
参加費 無料
定員 20人(要申し込み)

●木曜カフェ 会館

第2・4木曜日、13時30分～15時30分
レコードで懐かしい音楽を聴きながら

ほっこりしませんか？(1ドリンク100円～)

●Peace Bridge (ピース・ブリッジ) その他

「日本の女性運動史からみた平和への『責任』」
3月3日(日) 14時～16時30分
場所 神戸学生青年センターウエスト100・1F
お話 マレイド・ハインズさん
会費 500円

●神戸YWCA イースター 会館

「パレスチナ問題とキリスト教」
4月20日(土)
13時30分～15時30分
お話 村山盛忠さん(日本基督教団大阪生野教会
協力牧師)



世界祈禱日 2024

日時 3月1日(金)

13:30～15:00

主題「パレスチナからのメッセージ～
あなたがたに勧めます。
……愛をもって互いに忍耐しなさい」

場所 在日大韓基督教会神戸教会(神戸市長田区梅ヶ香町1-2-20)



会費納入のお願い

2023年度(2023年4月～
2024年3月)の会費・会友
費の納入をお願いいたします。
2022年度の会費が未納の方
は、併せてお納めください。

*特別な事情により会費の支
払いが困難な場合は、「会費
減額制度」がありますので、
事務局にご相談ください。

と2024年度活動計画予算案
承認●定期会員集会の議事案
承認●グループ活動規程●今
後のスケジュール確認●賛同：
JVC 12/25「ガザ地区停戦を
願うNGO共同記者会見」
(書記・住田 サラ)

理事会報告

11月27日(月)、第4回
理事会。出席理事7人、監事
2人。会債の取り扱い、職員
の下半期賞与について協議・
承認された。

12月16日(土)、第5回
理事会。出席理事7人、監
事2人。公益財団法人変更
認定に関する内容が協議・承
認された。次年度人事、日本
YWCA ガバナンス研修での発
題内容を協議した。

1月22日(月)、第6回理
事会。出席理事7人、監事2
人。理事会の今年度報告と次
年度計画・予算案を協議・検
討。次年度人事が承認された。
(総幹事・西本玲子)

賛助員

加納 花枝 岩村 義雄
山崎 道子 釜田 睦子
馬場 一郎 篠原 悦子(敬称略)

編集後記

凜とした梅から暖かい桜の
季節に向かう短い間に、日本
に、世界に大きなことが起こ
らないことを願います。(S・T)

子ども日本語 トータルサポート基金

基金期間を2024年3月
31日まで延長しました。
引き続きご支援くださいま
すようお願い申し上げます。

神戸YWCA 冬季クリスマス募金報告

募金総額：2,312,400円
(2023年11月～
2024年1月31日)

ご協力くださいました皆さま
に心より感謝申し上げます。

学院だより

外国語コースでは、長年にわ
たり兵庫県職員の方たちの英
会話クラスをコーディネート
している。平日の仕事帰り、さ
まざまな職種の受講生が和気
あいあいと英語を学んでいる。
気の置けない仲間と英語を楽
しむ、preciousな時間がいつ
までも続いていくことを願う。
(秋月 啓子)

保育園だより

神戸YWCA 保育園は、小規
模だからこそ「家庭と同じ目
線を持った保育」を心がけて
いるが、全員に作品を作らせ
ようと誘う、排泄の有無関係
なしに一斉にトイレに呼ぶな
ど、子どもの「やりたい」で
はなく「やらせる」になっ
てはいないか。来年度の計画
を話し合う中で保育士からこ
んな声が出てきた。そして、
子どもがなぜそうしているの
かを考え、「やりたい」を引き
出す保育を実現するために、よ

り臨機応変に動く保育園を目
指そうと話し合った。
(園長・梅川 玲子)

まごの手だより

「居宅介護支援」は、ケアマ
ネ1人が29件のケアマネジ
メントを行っている。

「訪問介護」は、ヘルパー人
材不足が課題だが、3月から
1人の常勤ヘルパーを迎える
ことになった。

「生活支援わいわい」のメン
バー登録数は15人。11/1～
1/20のサービス利用は6件。

「居住支援」は、11～1月
で、9件の入居前相談を受けた。
入居中の相談援助も引き続き
行っている。(所長・寺内 真子)

運営委員会報告

11月11日第8回、出席
6人【報告】●理事会●日
本YWCA研修●なのはまエ
イト●会員動向【議事】●
会費改定に関する素案検討と
スケジュール確認●委員会運

ホームヘルパー募集

誰もが地域の中で自分らしい暮らしをおくるために、
担い手となって働きませんか。

◆ホームヘルパー

常勤 月給198,100円～
パート 時給1,100～1,200円
登録型 時給1,000～1,400円

*担当・寺内までお問い合わせください。

◆生活支援訪問
サービス従業者 900円/回

神戸YWCA
まごの手

☎078-231-3156